

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目 150分

## 解答形式

記述・論述

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

全体として計算量が増加しており、総設問数も若干増加 (31→33) した。

## 出題の特徴

過程を記述させる設問が増加し、論述する設問が減少した。

## その他トピックス

第3問Iの「当量点」の定義が一般的なものと異なり、戸惑った受験生もいたと思われる。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度	
第1問	I	記述	有機	化学	分子式 $C_6H_{12}O$ で表される化合物の構造決定, オゾン分解	やや難
	II	記述, 論述 計算	有機	化学基礎 化学	窒素原子を含む芳香族化合物の反応, 同位体の存在比とその変化	標準
第2問	I	記述, 計算, 選択	理論	化学	不均一系の平衡, 気相平衡 $H_2 + I_2 \rightleftharpoons 2HI$ の気相平衡に対する水素吸蔵物質の影響	標準
	II	記述, 計算, 選択	理論, 有機	化学	$\alpha$ -アミノ酸の滴定曲線, 反応速度, 熱化学, $Y + H^+ \rightarrow YH^+$ の変化の反応速度および pH との関係	標準
第3問	I	記述, 計算, 選択	理論, 無機	化学	モール法による $Cl^-$ の定量実験とその測定条件に関する考察	やや難
	II	記述, 計算	理論, 有機	化学	水素吸蔵合金 (Ti-Fe, La-Ni) の結晶格子, トルエンの付加反応	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

基礎力を確立するとともに思考力・応用力を養成すること。記述・論述問題が多いので、「過去問」などを通じて、論理を明確に展開する力をつけておく必要がある。